

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内 1 丁目 3-30

TEL 088-821-2000

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>
電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1076 2009年11月号

「木づかい推進月間・木の良さPR展」開催

【記事は2頁以降に掲載】



新聞記者の取材を受けている様子



「木づかい推進月間・木の良さPR展」

人と環境に優しい木材の特性や、地域の林業・木材産業の活性化、森林の多面的機能の発揮にも貢献する木材利用の意義について、国民の理解を高めることが重要となっています。

林野庁では、国産材利用の意義を広め、需要拡大につなげていくための国民運動として「木づかい運動」に取り組んでおり、平成一七年度から毎年一〇月を「木づかい推進月間」として集中的な活動を行っています。

平成二二年度においても、地



域材の生産・加工・流通に関わる事業者はもとより、関係省庁、地方公共団体や関連する団体・企業・NPO等も含めた幅広い人々の参加の下に、地域材の利用の意義に関する知識の普及及び情報の提供に必要な取組を全国的に行っています。

四国森林管理局においても、月間中の取組として「木づかい推進月間・木の良さPR展」を森林組合や企業、個人で木製品を作っている高知市在住の手島さんなど多くの方々にご協力をいただき、森林管理局一階

の「森林ふれあい館」において、一〇月一三日（火）から二五日（日）まで開催しました。

会場には、

- ・四国森林管理局の公共工事等における木材利用取組事例
- ・間伐材を利用したコピー用紙「木になる紙」のPR

「緑の島四国の森林共生を考える」車座サミットin梶原の開催

〈企画調整室〉

一〇月二六日に高知県梶原町のゆすはら・夢・未来館において、「緑の島四国の森林共生を考える」車座サミットin梶原が、四国森林管理局、四国経済産業局、高知県、梶原町などの共催により開催されました。

サミットには、林業関係者、建設業者、地方自治体職員、地元企業の方等、約一六〇名が参加し、豊富な四国の森林資源を有効活用し、雇用創出と地域活性化に繋げるために、地域が連携して林業再生に取り組むこと等について、話し合われました。

第一部では、慶應義塾大学理工学部の米田雅子教授により「林業再生と産業創生」と題した基調講演が行われました。講演では、森林・林業の現状に触

・木製品（日常生活用品・木のおもちゃ）の展示
を行い、間伐材をはじめとする国産材利用拡大に向けた積極的なPRに努め、期間中にはテレビ局や、新聞社の取材を受けるなど、多くの方々にご来場を頂きました。

〈企画調整室〉

れ、産業としては厳しい状況にあるが森林資源は充実しつつあり、林業再生に向けては作業道の拡充や施業集約化が重要であることについて説明がなされました。また、作業道等を作る際に林業と建設業が連携して取り



基調講演

組む「林建協働」や、木質バイオマスのエネルギー利用等についての提言がありました。

続いて、第二部の車座討論

「緑の島四国の森林共生を考える」では、①梅原デザイン事務所の梅原真氏、②森昭木材の田岡秀昭代表取締役③徳島県上勝町の笠松和市長④愛媛県農林水産研究所の森信光夫林業研究センター長⑤高知県梶原町の中越武義町長⑥高知県知事の尾崎正直知事の六名から森林・林業の情勢や具体的な取組について紹介が行われました。

①梅原氏からは、高知県の森林率八四パーセントをモチーフにした「はちよんプロジェクト」②田岡代表取締役からは、山側が森林を積極的にアピールし、町側の人に森林に求めてもらう取組③笠松町長からは、上勝町の健康をテーマとした木材利用の推進④森林林業研究センター長からは、GISを用いた森林資源の管理⑤中越町長からは、環境モデル都市梶原のFSC認証やペレット工場といった林業・木材産業に関連した先進的取組⑥尾崎県知事からは、高知県の推進する産業振興計画における施業集約化や県産材の利用について、それぞれ具体的な事例を盛り込み



車座討論

ながら説明がなされました。
引き続きの意見交換では、学生から、都会の人に森林の魅力を感じて貰う方法についての質問や、企業の方から、未利用資源の利用について様々な関係者と連携して取り組みたいといった提案が出される等、活発な意見のやりとりが行われました。

最後に、四国の森林資源を循環利用し、林業の再生と森林環境の保全に繋げていくために、林業関係団体、産業界、行政等の関係者が連携し、多様で健全な森林整備の推進や森林資源を活かしたビジネス等に取り組みことを旨としたサミット宣言を採択しました。

四国林政連絡協議会を開催

〈企画調整室〉



第 35 回林政連絡協議会

九月八日、香川県高松市において林野庁、四国各県の林務担当部局、(独)森林総合研究所四国支所、同林木育種センター、同森林農地整備センター、中国四国整備局参加のもと、第三五回四国林政連絡協議会を開催しました。

開会にあたり会長の篠田局長から「この協議会は、関係機関が一堂に会し、森林・林業の諸課題について意見交換を行い、共通認識を持つ大変重要な場である。林業を取り巻く環境の変化の激しい時代ではあるが、山村を元気にするという共通認識のもと、協議会に参加されている皆様とともに取り組んで参りたい。」と挨拶がありました。

次に開催県である香川県瀧本環境森林部長から「今年も早明浦ダムの渇水や台風による土砂災害が発生したが、これらを防止するため水源かん養のための森林整備や治山事業の実施が重要である。各機関にかかれては、協議会の場を利用して忌憚のない意見交換ができて

ればと考えている。」と挨拶がありました。

続いて、「四国山の日賞」選定団体の報告・審議、林野庁計画課小島首席森林計画官から林野庁の重点施策についての説明が行われました。その後、各機関から話題提供が行われ、平成二一年度補正予算に関連した新規施策の取組状況や、森林吸収量取引プロジェクト、林業と建設業との連携等の森林・林業を取り巻く新たな動向について意見交換が行われました。



募金の様子 (鳶ヶ池中)

(社) 高知県森と緑の会主催による「秋の緑の街頭募金」が、一〇月一〇日、高知市中央公園を中心に商店街(帯屋町筋)周辺で行われました。

出発式の後、篠田局長、計画部長を初め街頭募金協力者約五〇名が参加し、道行く人に募金を呼びかけました。今回の街頭募金では、平成二一年度に緑の募金公募事業を活用している「鳶ヶ池中学校 P

秋の緑の街頭募金

鳶ヶ池中学校のうれしい協力

〈指導普及課〉



募金の様子

TA」から街頭募金で協力したいと中学生七名が参加してくれました。

当日は、台風一過の秋晴れに恵まれ、子供からお年寄りまでたくさんの善意が寄せられました。

「緑の募金」は、ふせごう地球温暖化をスローガンに実施され、国内または海外で行う森林整備及び緑化推進の活動などの支援に活用されています。



募金の様子（鳶ヶ池中）

秋期緑の募金期間は、九月一日から十月三十一日まで行われました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

「くしいやま」「いいのやま」「工石山」、「飯野山」で「森林・林業体験 交流促進対策調査」の中間報告検討会を開催

〈指導普及課〉

平成二一年度から、嶺北森林管理署管内の「工石山地域」及び香川森林管理事務所管内の「飯野山地域」を対象として実施している「森林・林業体験交流促進対策調査」の中間報告検討会を、工石山地域については、一〇月二三日に高知市工石山青少年の家において、飯野山地域については、一〇月二八日に丸亀市野外活動センターにおいて開催しました。

この調査は、比較的都市部に近く、体験活動の場としてふさわしい両地域において、安全で効率的な学習体験活動を行うための全体構想、学習・体験プログラム等の作成、取りまとめを行うものです。その取りまとめに当たっては、有識者や教育関係者、地域の活動団体等の方をメンバーとする検討会を開催し、その意見を反映させることとしています。中間報告の内容について、



工石山地域の検討会の様子

ラムも作成すべき」、「単に森林学習だけで終わるのではなく、地域の小学校等と交流することも大事」などといった意見が出されました。

また、「飯野山地域」の検討会では、「現状では、健康管理を目的とした六〇歳以上の方の利用が多いことから、その方たちと小学生等のための利用を区別し、ハード面・ソフト面の整備をする必要」、「利用を進めていくために掲示板を設置し、タイムリーな情報を発信するとともに、掲示板を通して小学生等の交流が図られるよう、書き込むことができるなどの工夫が必要」、「小学生等がターゲットであればトイレの設置は必要であり、また、救急安全体制の整備も重要」などといった意見が出されました。

さらに、「工石山地域」及び「飯野山地域」共通して、「海に近いことが特徴であることから、山・里・海のつながりという広い視点で、農業・漁業等とも連携した取組が必要」、「副読本の作成が提案されているが、わかりやすい内容及び分量にする必



飯野山地域の検討会の様子

要」、「学習資機材の整備に当たっては、現在・過去の道具の歴史、使い方から後片付けまでを含めた教育の視点が必要」との意見が出されました。今回出された意見については、一二月に行う予定としている最終報告検討会で検討していくこととしています。

シリーズ
106

地域の声

森を守る^{もや}舫い^{もや}となつて

フォレスターズかがわ

理事 増田 孝夫

<http://shir.in.ashi-ta-sanuki.jp/>



「フォレスターズかがわ」はフォレスターズスクールの履修生の有志で二〇〇五年に結成された森林ボランティア団体です。フォレスターズスクールで得た知見を生かしながら、香川の環境保全や森づくりに貢献することを目的に活動しています。「フォレスター」とは本来「森林管理官」を意味しますが、ここでは私たち「かがわフォレスター」が集まったという意味での複数形のフォレスターズに「森の仲間たち」という意味を込めています。そして、その仲間たちが増えていくこと、私たち一人ひとりの市民が森林保全

のために繋がっていくこと、すなわち森を守る人々の「舫い^{もや}」となつて地域の自然環境の保全に貢献したいと考えています。現在、県下二カ所に森づくり

活動のフィールドがあり、一つはまんのう町にある人工林（県有林約五ヘクタールエリア）で森林の手入をしています。V 年齢級のヒノキ林で主に除間伐などの作業です。もう一つは三木町内のヒノキとスギ VI 年齢級前後の人工林（民有林約五ヘクタールエリア）です。ここでは間伐が主な作業と



記念植樹



フォレスターズのメンバー

なっています。

また、私たちはフィールドワークをベースに、森林環境教育活動分野にも取り組んでいます。

二〇〇七年度より実施しているものに「森林カレッジ」があり、これは通算一〇回を数えます。座学あり、フィールドワークありで、内容は時の話題性を取り入れたユニークなもので、毎回多くの方にご参加いただいています。また、家族で参加する「交流の森」は森林の中で行うワークショップです。参加者に間伐などの森づくり体験をしてもらい、伐った木を使って何かを作ろうというもので、二〇〇八年に実

施した「交流の森 in ことなみ」は、会の活動の今後につながるものでした。

そして、「いろり工房」との協働では県下小学校からの依頼による出前授業を行っています。

これは身近にある自然素材を使って何か作ってみようというワークショップです。その中から子供達は自然に対する想いを養い、モノをつくることの楽しさを学んでいます。竹ぼうき、布ぞうり、木の枝を使った小物など、子供達は素朴な工作に熱中します。さらに福祉施設では夏のイベント（流しそうめん）の竹を使った会場設営などの協力をしています。



間伐体験

このように森林づくりを中心に、会員のもつスキルを生かして関連分野へも活動を広げています。私たちの住む讃岐平野は、おむすび形の山々が瀬戸の島々とながり美しい風景をつくります。県土は四国全体の一割、森林面積においてはそれの一割にも及びませんが、山には二・七万ヘクタールの人工林と五・五万ヘクタールの自然林があります。阿讃山脈を背にいただき、雨が少ない瀬戸内気候はヒノキの植生に向いていると言われます。私たちはこの里地の風景を守り、山々を次の世代へつないでいきたいと思っています。

（注）フォレスターズスクール：県民参加の森林づくり活動のリーダーであり、森林環境教育や体験学習の支援者となる「かがわフォレスター」を養成するために、香川県では二〇〇二年度からフォレスターズスクールを開講しています。

「フォレスターズかがわ」は、平成二〇年度「四国山の日賞」（森林環境教育活動の推進部門）を受賞されました。